礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
吉田印刷所　㊗5424

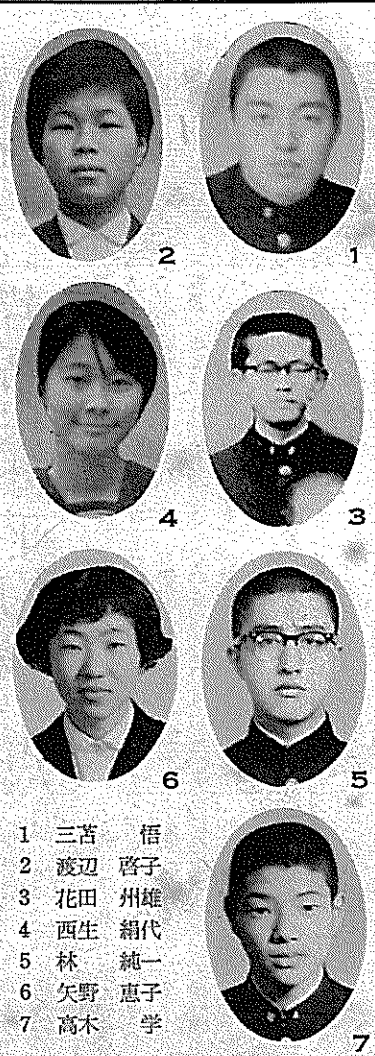
不実な友を持つなら
むしろ敵をもつがよい
―シェークスピア―

転起に立つ生徒会

第四十年度後期生徒会

昭和四十年度後期生徒会役員選挙が、去る十一月四日（木）の昼休みと放課後を利用して行なわれた。その結果、会長に三苫悟君（二ノ七）、副会長に渡辺啓子さん（二ノ五）、同花田州雄君（一ノ六）、書記長に西生綱代さん（二ノ二）、同林純一君（一ノ三）、そして、会計に矢野恵子さん（二ノ三）、同高木学君（一ノ五）が当選した。

今回の選挙については、旧役員の苦労はなみたいていのものではなかった。立候補締切の日になっても、候補者はいないものです、暇をみては、一、二年生のめぼしい人を説得してまわり、立候補者をだそうと努力した。しかし、候補者はひとりもいない。最後の手段として、二年生は学年集会を開き、各学級から必ず一名だすことを決定。一年生は、体育館二階に集められ、三年生の元執行部で活躍した方達から、生徒会の持つ意義、仕事の内容など、そして、生徒会の危機を知り、必らず候補者をだすと約束した。このようにして、やっと投票日を迎えたのである。激しい選挙戦の結果、新しい役員が決まりファイトある執行部が誕生した。



1 三苫　悟
2 渡辺啓子
3 花田州雄
4 西生綱代
5 林　純一
6 矢野恵子
7 高木　学

先月四日（木曜）体育館二階に設置された投票場で後期生徒会役員の投票が行なわれた。今回の選挙は従来の信任投票でなく多勢の立候補者のため、活気ある激しい選挙戦が展開された。こうして現在の新しい執行部が誕生した。早くも一カ月たった今日、活動も順調にいっているようだ。後期執行部の仕事は、来年度予算の決定、予餞会、オリエンテーション等、我々の関心が深い大きな行事をひかえている。その他、生徒会への関心を高めるための具体案としては投書箱の設置と、生徒会に対する批評会等をもうける予定だそうだ。この問題については、毎年、目標にされているが、今までいっこうに成果があがらなかった。今度はいろんな計画をたてているのでこれが成功して欲しいものだ。

もう一つの目標として校内美化があるが、これは美化委員会と協力してやって行き、月一回美化週間をおくとか、前に行なっていた整風月間の実施とか、いろいろな計画をたてているようだ。その他の計画として来年度予算については各クラブに必要なものは全部クラブに備えさせるそうだ。これは用紙等の盗難を防ぐためと、会計上の都合によるものらしい。このように着実な計画をたてて一歩一歩、前進している執行部は、役員一人一人が、ファイト満々で仕事に励んでいる。しかし、執行部がいくらファイトを持ってしても、我々、一般生徒が今まで通りでは執行部のカラ回りで終ってしまう。自分達の選んだ役員が今どんなことをしているのか、もう少し関心を持ってもよいのでないだろうか。執行部の運営は直接我々の学校生活にひびいてくるのだ。今のままでは、なりゆきまかせの人が多すぎると思う。執行部と協力して、よりよい学校生活を送ろう。

尚、投票結果は次の通りであった。

会長　三苫　悟　八四七
副会長　渡辺啓子　六六三
　　花田州雄　六〇三
書記　林　純一　八五六
　　西生綱代　八三四
会計　矢野恵子　一〇六八
　　高木　学　九四五

特色ある生徒会を

会長　三苫　悟

後期の半年間執行部をあずかることになってあらためて自分の仕事の重大さを認識しています。先生や前の執行部の人に聞いて後期の行事予定を立ててみると、ほとんどの日数が、駅伝、予餞会、オリエンテーション、予算の査定等の年間行事に取られてしまいそうです。この行事にも自分達の特色を出したいし、生徒大会を開くということもあります。それに一応各委員会を招集して驚いたのですが今まで何もなされてなく二学期も半ばになって、委員長、書記等をきめたとこうです。このように必要不可欠なことが多くありました。もちろん生徒大会ということも忘れているわけではありませんどんなにいそがしくても必ず開きたいと思います。我々は出来るかぎりのことをやるつもりです。そのかわり、みなさんにも協力をお願いします。第一回の会報を発行しましたが、読んでくれたと思います。投書箱も設置してあります。疑問があれば生徒会室に来て下さい。みなさんが積極的にしてくれれば道具はそろっています。みなさん、私たちの手で私たちの生徒会をよりよいものにしようではありませんか。

関心のなさを痛感

選管委員長　天野静信

今度の選挙にあたって、第一に感じたことは、長年言われて来ているが、生徒会そのものに、みなさんの関心が薄いということです。我々の中に、生徒会が、それ自体何であるか、知らない者が多くあったのには残念に思いました。

若高の生徒である以上は生徒会費を払っているはずです。自分の出したお金が、少ないとはいえ、何に使われているか知るべきではないでしょうか。又、生徒会が現に存在している以上、多かれ少なかれ何か影響を受けているはずです。

第二に、生徒会に関心を持ち、現在の生徒会のあり方に不満を持っている人はいますが、しかし、自分から進んで生徒会を満ち足りたものにして行こうとする自主性を持った人は果しているでしょうか。生徒会の存在を信じる以上、だれかがやらねばなりません。

高校生活を充実させるためにも生徒会へ関心を深め、そして生徒会役員選挙について再認識してもらいたいと望む次第です。

生徒会への関心を深めれば、生徒会の重要性が自ら役員選挙の重要性に結びつくということが当然わかると思います。

最後になりましたが、選挙管理委員がみな初めての経験で、不備な点があったことをおわびいたします。若高の全生徒のみなさん新役員といっしょになって我々の手で我々のためのよりよい生徒会を育てていこうではありませんか。

主張

―は飲んでも ―に飲まれるな

「学生とブーム」

大体私達の身辺には常に、ブームがつきまとっている。

ブームを二つに分けてみると趣味のブームと実生活のブームに分けられる。前者は主に、リズム・ダンス・ボーリング等のいわゆる娯楽的なものである。又、後者は装飾品、日用品等の実用的なものである。

その趣味的ブームの一つとして、現在日本中にブームを起しているエレキ、モンキーダンスがあるが、その実態はすさまじいものである。我校にも少なからず、その旋風がおしよせようとしている。

一心に踊った後の気持は踊った当人でなければ理解できないという。私達は何か私達の力をぶつけるものを、いつも捜し求めている。それがこの場合エレキであり、モンキーダンスであったのである。

しかし、ある者は健全なスポーツに熱中する。健全なスポーツはいうまでもなく、奨励されているものであるが、一方はとかく特殊な目でみられがちである。ある人は、スポーツに対してエレキやモンキーダンスを踊る姿を熱狂的だという。その踊る姿に不安を感ずるのだろう。

現代は、次から次へとブームが生まれそして消えていく。そのブームもリズムであったり、こっけいであったり、エレキに溺れ、それを得るため服装であったり種々様々である。しかも、私達はそれを巧みに私に不当な行為を起こさせ、自分しまってはいけないのである。

ある地方では学生のエレキの鑑賞や購入を禁止した。

こういう事態を起こしたのも、私達のまわりに受け入れる。

「―は飲んでも、―に飲まれる」と昔の人は、よくいっているがそのように決して、私達がその中に受け入れられ、溺れていたからではなかろうか。

私達は何事にも、自分達の対象となるものを受け入れてもいいが、夢中になる前に、自己をふりかえり、現在の自分の立場をよく考え、学生の本分を忘れずに、責任を持って行動したいものである。

「学生と単車」

我校にも最近バイクを利用する人がふえた。そういう人達は、登校するための一手段としてバイクを利用するのであろうが、最近新聞紙上に、学生の単車による事故が載るのはめずらしくない。

バイクに乗って、スピードを出してとばすのは、ちょっとしたスリルをあじわえるのであろうが乗っている本人は、歩行者の迷惑を考えたことがあるだろうか。免許をとったら、もうそれでいいというようなものではない

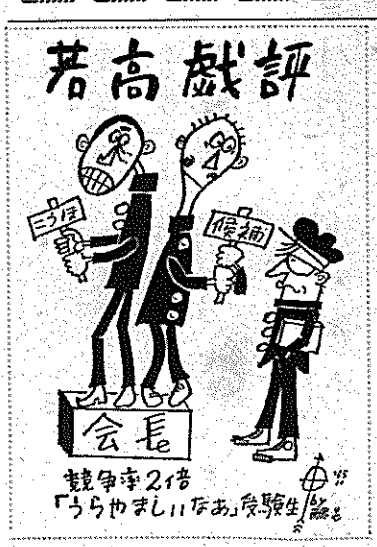
バイクに乗って、さっそうとしているのはかっこうがいいと思っているかもしれないが、そういうことが、スピードを出しすぎ、大きな事故を起こすもとではなかろうか。

まして、その時二人乗りでもしていたら、運転している人よりも後に乗っている人の方が死亡率が高いという。後に乗っている人こそ災難である。

よく、このごろ無免許で乗りまわしている人を見かけるが、その人達は運転の仕方をおぼえると免許をとるのがめんどうだと思うかもしれないが、そのちょっとした考えが、大きな事故を起こす原因であり、どうかすると本人の生命をも左右する。だから、早く法的な手続きをとって、有効的に利用してほしい。

又、現在我校にも免許をもっている中で、事故や違反を起した人も少なからずいると思うがそういう人達に、反省をうながすとともに、二度と再びこういう結果を招かないことを希望する。

若高戯評



十二月二十日、生徒集会を開く予定です。その時に討議してほしい議題がありましたら投書箱へ投函するなり、生徒会室へお知らせ下さい。

レコード楽器
金豊堂
本町六丁目 TEL ㊻ 3390

万年筆は信用ある
松永太陽堂
本町銀座　TEL ㊼ 2721

龍そば
本店　本町五丁目　TEL ㊼ 4320
㊼ 4074

教師 欲しいファイト ⟷ もっと信用して 生徒

先生と生徒大いに語る!!

――先生と生徒の座談会――

運動会、修学旅行等の大きな行事を前にして必ずと言っていいほどの先生と生徒の感情のくい違いはどうして起るのか、また世間一般から言われる予備校化した高校、その高校時代における、中学時代と比較した先生と生徒の接触。また先生から見た現在の若高の生徒、あるいは生徒から見た現在の若高の先生。意義深きよりよい高校生活を樹立する為にこれらの問題について、新聞部は去る十一月十五日（月）、書道教室において初めて先生と生徒の座談会を企画したわけである。四時から始めたこの座談会は予定の一時間を軽くオーバーして六時半まで二時間半にわたって、先生も生徒もおたがいの誤解を解き納得の行くまで熱心に討議が行なわれた。そして出席者全員がこの場限りのものでなく、もっともっと継続させていこうと誓い合った。新聞部もこの事を重視し出席者だけでなく広く皆に知ってもらおうとここに大きくのせた。なお出席者は次の通りである。校長、藤井、山田、吉開、今泉、赤司、高柳、熊谷、藤、三原の諸先生並びに三学年代表九名。二学年代表五名、一学年代表五名である。

若高生は平均七十点

司会 まず最初に、先生方は現在の若高生をどのように評価なされていますか。

校長 少しねばりが足りないという感じだね。それから物をもっと大切にしてほしい。公共物を大切にしないということがどうも欠点のようだね。まあ評価すれば六十点位かな。

藤井 現在の若高生はどうもファイトが足りないようだね。それから高校というところは人間形成の場なのだから、自分ひとりのことを考えないで、友情というものをもっと大事にしていって欲しい。今の若高生は正常でない民主化―理屈ばかり多くて行動がそれに伴わない―をおしていっているようだね。もう少し人間形成の面で努力してほしいね。まあ全体的に、社会性・根性に欠けているようだね。点数は少し甘くして八十点というところかな。（笑い）

山田 この学校は、女学校と中学校が合併してできたせいか、相殺してどちらの伝統もなくなってしまったようです。それでこれからは本当の意味での伝統をつくっていくことが必要だと思いますね。しかし、進学一本やりの某校に比べて、多方面において活動ができるので、その点若高生は幸福だと思います。まあ、悪い点ばかり列挙しますと、まず責任感に乏しい。特に男子に言いたいですね。それから、男らしさがない。つまり自分で責任をとることができないということです。また相手の立場になるということが欠けているようですね。君達はどうもよい意味でむきになることができないようです。利害打算が先に動いて少し小利口になっているようです。このようなことをまとめると六十点位ですね。

熊谷 勉強の面にしても運動の面にしても、まだ持っている力を十分に出し切っていない感じがします。また熱し易くさめ易いという点も、大いにマイナスになるのではないかしら。恵まれた自然環境、立派な校舎、それにふさわしい若高生としての自覚と誇り、この点が足りないと思います。まあ甘いかもしれませんが、平均して七十六点位かな。

型にはめたがる先生

司会 では立場を変えて、今度は現在の若高の先生に対して、皆さんはどのように思っていますか。

生徒 運動会のプログラム作成をした時のことですが、我々生徒側ではいろいろな案を立てましたが、先生方の反対もあって例年通りの平凡なものになってしまいました。このような例からも感じるのですが、先生方はもっと生徒を信用して生徒会に理解を示してほしいと思います。

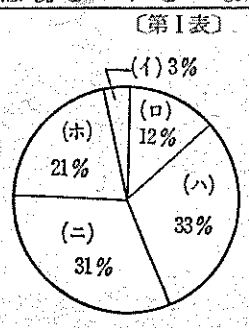
生徒 成績で生徒を評価される先生が若干おられるように思います。

生徒 勉強に重点を置きすぎると思います。生徒の考えを無視して先生方は一方的すぎると思います。それでは先生と生徒は理解しあえないのではないでしょうか。

生徒 先生方の中には、生徒の行動を見て見ぬふりをされる方がおられますが、注意して欲しいと思います。（笑い）

生徒 中学の先生と比較して、いろいろな面で一生懸命になっておられると思いますし、思想の面でも非常に豊かでいらっしゃいますが、半面それを我々に押しつけるきらいがあるようです。

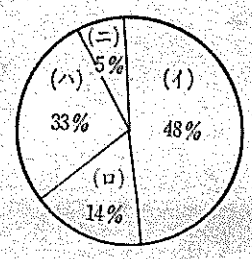
〔第Ⅰ表〕



一、現在の若高の先生をどう思うか

(イ) 物わかりがよい
(ロ) 我々のことを親味になって考えてくれる
(ハ) 考え方が古くさい
(ニ) 何とも思わない
(ホ) その他

〔第Ⅱ表〕



二、先生と生徒の接触について

(イ) 少ないもっと語り合う機会を
(ロ) 今のままで良い
(ハ) 何とも思わない
(ニ) その他

考え方に根本的違い

司会 次に運動会・修学旅行等における先生と生徒の感情のくい違いはどうして起るのか。この事について語を進めていきたいと思います。

吉開 修学旅行は教師と生徒の考え方に根本的な違いがあるのではないかと思いますね。我々はあくまでも正課の延長だと考えているが、生徒諸君はレクリエーションだと考えているようだね。（語調を強めて）君達は勉強するために学校に来たのではないのか。今の若い者達はいろいろな事をしたがるが、それは当面の勉強ができた上でやることである。自分の置かれている立場をちゃんとできないで、その他のことで何ができるか。と私は言いたいですね。

今泉 もっと情熱を持って、学業をやって欲しいですね。今年の三年生は、この春卒業した生徒よりいいと思います。二年生もまだまだ期待が持てるようですね。一年生とは委員会を通して位しか接触がないので、よくわかりませんが、入学当時とはどうもその面影が薄れつつあるようですね。先生と生徒間の関係は話し合いによって解決できるだろうと思います。

生徒 先生はさっき勉強勉強と言われましたが、時には息抜きにレジャーも必要なのではないでしょうか。

吉開 勉強とレジャーが両立すれば立派だ。しかし学生である以上は、勉強を優先するのが妥当ではなかろうかね。

生徒 しかし勉強に絶対的価値を見い出せないんですよね。他に何か見い出せるものがあるような気がして、勉強に真剣に打ち込めないんです。勉強はしたいのですが、本当に自分が必要と感じてからしたいのです。それが今なかなかできないんです

校長 朝から晩まで勉強し、夢にまで苦しむ必要はない。ある程度の余裕をもって、勉強もスポーツもやるということが本当の勉強じゃないだろうかね。

吉開 現在の二年生に、入学当時将来の進路を尋ねると、殆んどが九大・九工大を目指していた。それが一年もたつと、やれレジャーも必要だ。世間的なことにも首をつっ込みたい。そんなことで果して目的が達成できるのか。と私は言いたいですね。

校長 生徒の夢が実現するよう努力することが教師の役目である。将来、君達にきっと我々を評価する時が来る。もし我々に良心というものがあれば、その時の評価ほど恐ろしいものはない。だから今はいくらやかましい教師と言われても、君達を放任するわけにはいかないのだよ

生徒 今のままでは本当の欲求からではなく、マスコミに影響されて勉強する自覚なしの人間ができてしまうように思います。修学旅行では名所を見て感激するというようなことはなかったのですが、旅館で友人と心の底から語し合って涙を流したことは、とても良い経験でした。

吉開 （うなづいて）いかにも青年らしい、良い経験だと思いますね。涙を流して話し合えるなんてことは、今でないとできませんからね。

藤井 先生と生徒とが、意見の対立をするようなことがあっても良いと思いますね。卒業後、きっと話の種になりますよ。

吉開 私は修学旅行の時は何も言っておりませんよ。生徒がモンキーダンスをしようが何をしようが……。

山田 抵抗物がないと面白くないですね。君達は断絶感という言葉に酔っているようだが、先生と生徒とでは、年令や立場の違いでどうしても解釈の相違が生じるわけで、我々と君達との間には、そのような険悪な空気はないですね。

熊谷 これは主題から少しそれたことになりますが、最近、エレキが我が校にも流行していると聞きますが……。

司会 接触についてですが、中学時代と比較して、やはり接触する機会が少ないようです。我々は先生方にもっと飛び込んでいきたいのですが、それにはどうしたら良いでしょうか。

三原 君達が中学時代と比べて薄いというのは、少し甘えているのではないかな。話したいのならばなぜ来ないのか、と言いたいですね。つまり、教師に責任があるのではなく、生徒に原因があるのではないかな。僕はそう思いますね。

赤司 私は君達の接したいという気持が、どんな意味なのかよくわからないのです。甘えの気持があって馬鹿話をするのでは本当の意味での接触にならないのではないでしょうかね。それに、我々と君達とは人生体験が違うので、君達の喜ぶようなことを見い出せないんですよね。他に何か見い出せるものがあるような気がして、勉強に真剣に打ち込めないんです。勉強はしたいのですが、本当に自分が必要と感じてからしたいのです。それが今なかなかできないんです

校長 朝から晩まで勉強し、夢にまで苦しむ必要はない。ある程度の余裕をもって、勉強もスポーツもやるということが本当の勉強じゃないだろうかね。

吉開 現在の二年生に、入学当時将来の進路を尋ねると、殆んどが九大・九工大を目指していた。それが一年もたつと、やれレジャーも必要だ。世間的なことにも首をつっ込みたい。そんなことで果して目的が達成できるのか。と私は言いたいですね。

校長 生徒の夢が実現するよう努力することが教師の役目である。将来、君達にきっと我々を評価する時が来る。もし我々に良心というものがあれば、その時の評価ほど恐ろしいものはない。だから今はいくらやかましい教師と言われても、君達を放任するわけにはいかないのだよ

生徒 今のままでは本当の欲求からではなく、マスコミに影響されて勉強する自覚なしの人間ができてしまうように思います。修学旅行では名所を見て感激するというようなことはなかったのですが、旅館で友人と心の底から語し合って涙を流したことは、とても良い経験でした。

吉開 （うなづいて）いかにも青年らしい、良い経験だと思いますね。涙を流して話し合えるなんてことは、今でないとできませんからね。

藤井 先生と生徒とが、意見の対立をするようなことがあっても良いと思いますね。卒業後、きっと話の種になりますよ。

吉開 私は修学旅行の時は何も言っておりませんよ。生徒がモンキーダンスをしようが何をしようが……。

山田 抵抗物がないと面白くないですね。君達は断絶感という言葉に酔っているようだが、先生と生徒とでは、年令や立場の違いでどうしても解釈の相違が生じるわけで、我々と君達との間には、そのような険悪な空気はないですね。

熊谷 これは主題から少しそれたことになりますが、最近、エレキが我が校にも流行していると聞きますが……。

生徒に甘えの気持が

司会 接触についてですが、中学時代と比較して、やはり接触する機会が少ないようです。我々は先生方にもっと飛び込んでいきたいのですが、それにはどうしたら良いでしょうか。

三原 君達が中学時代と比べて薄いというのは、少し甘えているのではないかな。話したいのならばなぜ来ないのか、と言いたいですね。つまり、教師に責任があるのではなく、生徒に原因があるのではないかな。僕はそう思いますね。

赤司 私は君達の接したいという気持が、どんな意味なのかよくわからないのです。甘えの気持があって馬鹿話をするのでは本当の意味での接触にならないのではないでしょうかね。それに、我々と君達とは人生体験が違うので、君達の喜ぶようなことを見い出せないんですよね。他に何か見い出せるものがあるような気がして、勉強に真剣に打ち込めないんです。勉強はしたいのですが、本当に自分が必要と感じてからしたいのです。それが今なかなかできないんです

校長 朝から晩まで勉強し、夢にまで苦しむ必要はない。ある程度の余裕をもって、勉強もスポーツもやるということが本当の勉強じゃないだろうかね。

吉開 現在の二年生に、入学当時将来の進路を尋ねると、殆んどが九大・九工大を目指していた。それが一年もたつと、やれレジャーも必要だ。世間的なことにも首をつっ込みたい。そんなことで果して目的が達成できるのか。と私は言いたいですね。

校長 生徒の夢が実現するよう努力することが教師の役目である。将来、君達にきっと我々を評価する時が来る。もし我々に良心というものがあれば、その時の評価ほど恐ろしいものはない。だから今はいくらやかましい教師と言われても、君達を放任するわけにはいかないのだよ

生徒 今のままでは本当の欲求からではなく、マスコミに影響されて勉強する自覚なしの人間ができてしまうように思います。修学旅行では名所を見て感激するというようなことはなかったのですが、旅館で友人と心の底から語し合って涙を流したことは、とても良い経験でした。

吉開 （うなづいて）いかにも青年らしい、良い経験だと思いますね。涙を流して話し合えるなんてことは、今でないとできませんからね。

藤井 先生と生徒とが、意見の対立をするようなことがあっても良いと思いますね。卒業後、きっと話の種になりますよ。

吉開 私は修学旅行の時は何も言っておりませんよ。生徒がモンキーダンスをしようが何をしようが……。

山田 抵抗物がないと面白くないですね。君達は断絶感という言葉に酔っているようだが、先生と生徒とでは、年令や立場の違いでどうしても解釈の相違が生じるわけで、我々と君達との間には、そのような険悪な空気はないですね。

熊谷 これは主題から少しそれたことになりますが、最近、エレキが我が校にも流行していると聞きますが……。

山口君初優勝

＝昭和四十年度校内マラソン大会＝

(四〇分切る好記録)

恒例の校内マラソン大会は去る十一月二十二日（月）脇田電源開発所前折返しのコースで行なわれた当日は快晴に恵まれていくらか暑かったがコースが海岸沿いであるため涼しい海風が吹いてマラソンには丁度よいくらいであった。午前九時半、男子生徒、約八百五十名が、一年生を先頭に添田先生のピストルの合図で校門前をスタート、続いて二〇秒おきに二、三年生がスタートし、約十二キロに及ぶ熱戦を展開した。今大会は例年の大会と比べてコースが少し変り距離も短かくなったそうだ。しかし距離に関係なく全コースを力走する男子生徒も沿道で応援する女生徒もみんな一生懸命であった。今大会について注目すべき事は運動会において長距離走で圧倒的勝利をおさめた二年生に一年生がどこまでついてゆけるか、また運動会で優勝を逸した三年生が本校在学中最後のマラソン大会をどのように展開するかにあった。しかし結果はやはり二年生が強く一、二位を独占した。また、記録の面でも一位の山口孝博君が、距離は少し短かくなったとはいえ四〇分台を切る見事なタイムである。しかし今大会は例年と比較して落伍者がいくらか多かったことは、はなはだ残念に思う。来年のマラソン大会はこんな事がないように願いたい。それから、今月十八日にクラス対抗駅伝があるがその日もクラスを代表して出場する選手に一生懸命応援しよう。

なお今大会で個人五十位、及び各クラス五位までの者に賞品が与えられた。

個人、団体の優秀者、優秀クラスは次の通り。

個人優秀者

一位　山口孝博君　三九分三三秒五
二位　河野升平君（二ノ八）　四一分〇一秒
三位　石松正美君（一ノ六）　四一分一六秒

団体優秀クラス

一位　一ノ七　一二、八六五点
二位　一ノ五　一一、九九六点
三位　二ノ五　一一、四六四点

小石海岸での力走

マイペースで快調

優勝者　山口孝博君

現在若高には、河野君や本下君をはじめとする優秀なランナーがそろっているので、今度のマラソン大会は、相当善戦するだろうと思っていました。しかし、当日の体調が大変良く、レースの途中でペースの乱れることもなく始終自分のペースで走ることができました。この体調の良かったことが、今度勝てた勝因だと思います。今度出た三九分三三秒五という記録は、自分としては、満足していますしかし、今度のコースは、従来のコースより多少短いので、記録が参考記録に終るのが残念です。しかし来年には、また従来のコースになおると思いますので、その時には、必ず吉田さんの持つ四〇分〇五秒という大会記録を破りたいと思っています。

先生宅訪問

若高とともに三十三年

管理部長　添田先生の巻

今回は、海に面した赤い屋根の家―添田先生のお宅を訪問した。家の中に一歩足を踏み入れて感じた事は、大変家庭的な暖かい雰囲気が室の中いっぱいに漂っている事である。クラスを持っておられないせいか、私達の訪問を大変喜んで下さった。

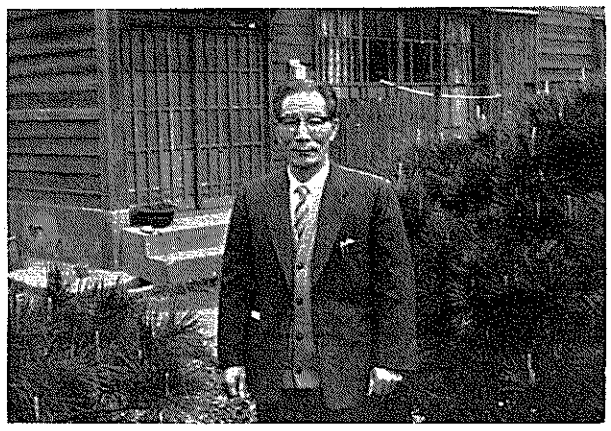
なごやかな雰囲気になった所で私達は最初の質問をした。

先生は遠賀川の川上の者良の生まれ、小学校は男子六人、女子四人の分校で、東筑中学時代は、陸上の長距離が得意だったせいもあってか、日本体育大学に進まれ、現在に至っているそうである。昭和七年若松女学校に勤められてから、三十三年間若高と共にしていらっしゃるそうだ。また昭和二十九年から十年間教頭をなさって、バレー部の顧問していらっしゃるので、バレー部がけでなく、若高生、現代の私達若い者一般に通じる事で、感想などを聞いてみた。バレー辛抱さや、ねばりがないというか、根性がないというか、そのような事に欠けているそうである。これは何事にも通じる事ではないでしょうか？

棚にたくさんの蔵が並べてあったので、趣味、愛読書を聞いてみた。読書の暇がなく愛読書はこれといってないが、専門書を読むくらい。趣味も雑趣味で特に、庭いじりをなされるだけだそうだが、庭には松の葉の緑と、はぜの葉の赤が窓ガラスより初冬の晴れわたった空に、あでやかに見えた。

壷は特別には求めないが旅行などに行った先で買われるそうで、海の見えるこの室の中をいっそう引き立たせていた。

話はだんだんとマラソン大会の事に移り、先生は一生懸命女子に運動をお勧めになっておられた。私達にお茶を運んで下さった奥さんに今度は妻の健康が家庭の幸福の元だと教えて下さった。



質問してみた。奥さんからみた先生はどうですか？そうですね！と笑いながら答えて下さった。先生は平凡ではあるが、大変家庭的で（これは私達みんなが先生と話をしていて一番に感じた事である）若い時病気はしたことがないそうでそれに何事に対してもやり始めると、最後までやるということが短所でもあり長所でもあるそうだ。

教師になられて一番嬉しい事は、バスの中や町を歩いている時に先生と声をかけられたり、同窓会などに呼ばれる時だそうで、先生に生徒が慕って来るということは、先生の人柄だと思われます。

最初から休みなく質問したが最後に一問―先生がモットーとされていることは何ですか？「多いがまあしいていえば、毎日を明るく楽しく有意義に過ごすという事です」私達新聞部員は厚くお礼をいって、別れを惜しみながら楽しい訪問を終えました。

「日日是好日」という言葉があると思いますが私は私なりに今日一日を有意義に明るく楽しく元気に自分の勤めにはげみたいと念じております

新刊案内

エジプトの神秘

ツタンカーメン

今回は、現在福岡で開催されている話題の、ツタンカーメンの本を紹介しよう。まずその前に、ツタンカーメンについて、ちょっと述べておこう。

今から三千三百年前（日本では縄文時代の中期）でエジプトの第十八王朝に君臨していた少年王ツタンカーメンの墓から無傷のままで発掘されたものである。ツタンカーメンのことはこれくらいにして、本の内容を、簡単に知らせることにしよう。

この本は、ほとんどカラー写真で構成されており、ページをめくるごとに、目を見張るばかりの美しさが表われてくる。その中でも中心のページは、何といっても黄金のマスクのページであろう。黄金の美が、カメラによってキャッチされており、人間味のある整った顔が正確に写し出されてある。この豪華さには、ただ驚くばかりであった。その他にも書くことは沢山あるが、全部書いていたのでは、この少なくない紙上では、とうてい足りないので、この辺で本の説明は終るが、最後にこの本を手に取って見た感想として、ぜひ多くの人に見てもらいたい。

ちょっと一言

大切にしよう！

この程やっと中庭が完成した。これは若高の誇りの一つとなるだろう。しかしそれも大事にすればの話である。

若高生は新しい物があると、何かせずにはいられないたちのようだ。例えば、水道のコック、ゲタ箱の出入口の壁に書いてあるもの、ヒビのはいった手すり等良い証拠である。我々はこのように公共物の愛護など、どうでも良いという考えの傾向がある。しかし公共物を一つこわすという事は若高の恥を一つ多くする事であって結局は我々によって、マイナスの事をしているのと同じ事である。このような、どうでもよいという考えは次のような事と似通っている点がある。皆さんは自分たちが必死で作った物を、こわされたり、傷つけられたりした時の気持を味わった事がありますか。この磯陵新聞を例にとると、皆さんの帰った後、ゴミ箱に捨てられている物、廊下にバラバラにしてちらかされている物が多数見られる。この時の新聞部員の気持を皆さんは考えた事があるだろうか。これは決して磯陵新聞に限ることではない。何事でも、相手の努力なり、苦労を少しは認めたいものである。

保健視察団来訪

本校の保健、美化関係の活動が他校に比してとくに優秀である由で、先月十一日、福岡県北地区保健福祉視察団が二台のバスを連ねて本校にやってきた。総員三〇〇名の予定であったが、当日は教師二十人、生徒八十八名、福岡県中部地区高等学校二十校あまりの団体であった。校長先生の説明を武道場で聞いた後、それぞれ生徒会美化委員会、保健委員会とそれに新聞部関係に別れて、各々の本校関係者の接待係に引き卒られて、本校の内部を隈なく見学して歩いた。

時間的に余裕があれば、各々の関係で懇談会を開かれたのであるが、何しろ二時に到着して、実際の行動は僅か半時程度であったので、見廻った後に直ちにバスに乗り込まねばならなかったから、バスが出発する直前まで、いろいろに談を交わしていた。訪問に来て大急ぎで帰った感があるが、兎角、本校に関しては各高校から敬意を表わされたことだし、今まで伸び伸びになっていた中庭の花壇作りがようやく学校側の配慮で瞬く間に実現化され完成に接近したのは、まことに喜ばしいことであろう。

辞典と参考書
石松書店
本町六丁目　TEL ⑯ 2415

服飾材料専門店
手芸講習毎週金曜日
午後2時より
7時まで
しらき
若松区明治町三丁目
TEL ⑯ 3686

特製の制帽
片山帽子店
若松区中川通二丁目（丸柏前）

香りと味のお茶の店
松井松緑園
本町銀座　TEL ⑯ 2649

時計・貴金属・印章・メガネ
マルミツ
本店 本町五丁目 TEL ⑯ 4054
支店 中川通二丁目 TEL ⑰ 2638

十月三十一日、小雨の降る中を六百人余の観衆に見送られながらバイカル号は横浜港を後にした。十一月二日、ナホトカに到着、又すぐにハバロフスクへ汽車で出発した。三日、今度は飛行機で目的地のモスクワへ飛んだ。ここで数日、市内見学をした。帰りは、モスクワからハバロフスク、ナホトカ横浜へと約二週間にわたる。ソビエト旅行を無事終了し、十六日帰国した。以下はその訪ソ記である。

教育費は無料

十七日間にわたる訪ソの旅は、私の生涯に忘れられない印象を刻みつけてしまったようだ。

とりわけ、高度一万メートルのジェット旅客機の窓から見た、青い薄暮の中のウラルの雪山は、忘れ難い。私は、幾度、窓外に飛び出して、輝く白銀の山肌に触れてみたい衝動にかられたことだろう。

そう言えば、今度の訪ソ中、これと同じ感慨を催したことがある。

十一月七日、華麗な第四十八回革命記念のパレードを観るため、赤い広場に出席した後、私たち視察団一行は、レニングラードに向い、十二日、再び、モスクワにとって返した。

モスクワ第二十番学校を視察したのは、その冒の清々しい朝であった。

モスクワ市内にある、このこじんまりした学校には、一年生から十年生までの生徒九六〇人余が勉学にいそしんでいる。つまり、可愛いチビッ子大将から、髭づらの青年までいるわけである。従ってここには、高校入試の悩みは、全くない。又、近頃、新聞紙上を賑わしている大学入試のための試験地獄も、日本とは、大分、様相を異にしているようである。

ソ連での義務教育は八年生までで、大学を希望しない生徒は、卒業のための国家試験を受けて労働者となる。

私がボリショイ劇場前の公園で逢った、今年八年生を卒業したばかりの自動車修理工は一三〇ルーブル（五万二千円）のサラリーを貰っていると誇らしげに語ってくれたものだ。

ところが、私たち一行を案内したインツーリストに属するガイドのLさん（二八）はソ連第一のモスクワ大学東洋学部、日本語科を卒業、現在、パリパリの第一線の日本語通訳であるにもかかわらずサラリーは、修理工と同額の一三〇ルーブルだという。

つまり、ノルマによって、サラリーが違うわけだが、こんな社会体制の中からは決して大学受験のために、本来の教育がゆがめられる必然性は、生まれて来ないだろう。

これに類似したことは、今度の旅で、たびたび経験した。

例えば、私たちが乗った、ナホトカ、ハバロフスク間の急行列車運行の全責任者である専務車掌のSさん（三五）は、月給一五〇ルーブル（六万円）、点検係兼車内放送係兼日本語通訳のWさん（二五）は、一七〇ルーブル（六万八千円）、機関士のTさん（三〇）は、実に三〇〇ルーブル（十二万円）のサラリーを貰っているというのである。

つまり、この国では、階級の上下に関係なく、そのノルマに応じて、個別の給与表が作られているらしい。事実、モスクワで自家用車を最も多く持っている職種は、炭坑夫だと聞いた。

こんな社会体制の中では、子供の立身出世のために、涙ぐましい努力をする「教育ママ」も、生まれてくるはずがない。学問の好きな生徒だけが、十年生を終えて大学を受験するということになるわけだ。

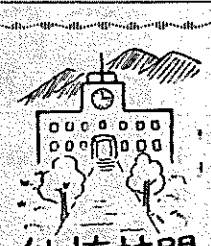
ソ連では、現在、教育費は一さい無料だが、大学に入ると、月額一二〇ルーブル（四万八千円）の奨学資金が貰える。さらに、成績優秀者には、奨学資金の二五パーセントがプラスされる。

そこで、モスクワ大学では、現在、学生結婚が流行している。それも道理で、大学の寮には夫婦部屋が、ちゃんと用意されていて、二人で二四〇ルーブル（九万六千円）の奨学資金を貰いながら悠々と学問にうち込むことが出来るからである。

苦しいアルバイトをして学校を出た私にとって、これは、まるで夢のような話であった。

又、日本の教師として、全く羨望にたえなかったのは、一クラス二十六人という定員が厳然と守られているということである。これが、語学の時間ともなると、さらに二分され、一コース十三人となる。全く個人教授に近いシステムを見て私は唖然とした。そして、一クラス五十六人の、わが若松高校の現状を思った。

現代の日本にあって、ソ連の教育界に見られる素晴らしいシステムは、一万メートルの高度から見た神秘的なウラルの雪山のように私たちの遠く手の届かないものなのであろうか。私は、しばし、考え込まざるを得なかった。



他校訪問

玉竜旗争奪剣道大会優勝に輝く東筑高校。折尾駅から歩いて約十分、緩やかな坂道を登っていくと周囲を緑に囲まれた校舎が見えてきた。この高校のシンボルである正面の一本松は、昔運動場の真中にあったそうだが、残念ながら二度も害虫に荒らされた為に、三代目の松として現在の場所へ移されたということだった。

明治三十一年に創立され県下でも最も古いとのことであった。校舎もそのなごりを残した木造と鉄筋コンクリーからなっている。校舎は離れて建っているが、校舎内でも下ばきが兼用されているので、何の不自由も感じられないそうである。しかし、汚れが激しいため十日に一回油ふきをするとのこと。又特別教室が非常に多く、完備されているのには羨ましい限りである。

鉄筋コンクリートの校舎として、まず最初に図書館――談話室、先生、生徒別々の閲覧室、相談室等があり、九州一というだけあって、さすがに立派なものであった。相談室は週に二回、先生方に各自の悩みごとについて、色々相談するために大勢の人に利用されている。そしてここで一カ月に一回読書会が開かれる。要領としては何週間か前に本を決め、それを読んで自分の感想を発表しあうのである。

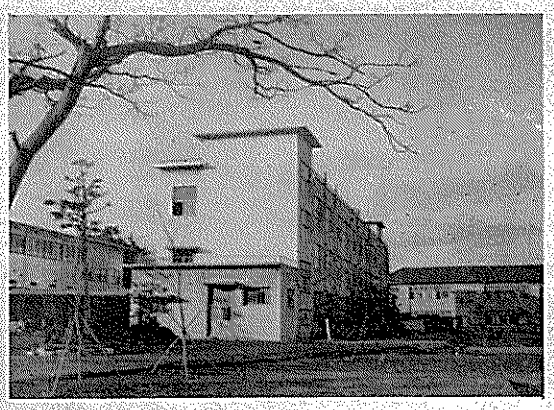
次に私達には羨ましい限りの食堂がある。二階建の清潔な感じの建物で使用時間は、昼休み一時間である。

クラブ活動は、体育部十五、文化部十八で自由参加である。体育部の内、剣道部はいうまでもないが近頃では、体操部の個人の部で九州第一位等大変活発である。

我が校にないクラブとして、食物クラブ、応援クラブ等があり、前者は毎週色々な料理を作っている。後者もよく練習に励んでいる。このクラブは賦合がある度に、大いに活躍している。

他武道場、正面校舎等がある。

運動場は我が校に比べてやや狭いくらいで、丁度野球部が練習している。



歴史を語る一本松
＝東筑高校の巻＝

そうだ。

又、全校生徒数は、我が校と大体同じくらいで、学級数は一年―十組、二年―十組、三年―十一組となっている。そして定時制はないそうだ。

生徒会の構成は、会長、副会長、書記、会計各一名ずつで、三月に会長を選出し、他の役員は会長が指名し、先生方の承認を得て決まるのである。任期は一年で四月から仕事を開始するが、あまり活発ではなく、会長の選挙はいつも信任投票によって決まるそうだ。

又、進学率の良いこの学校では三年になって初めて進学組と就職組に分かれるのだそうだ。毎年、東大、京大、九大などに高い進学率を示している。

制服は男子は学生服で、女子は白線のセーラー服に白ネクタイである。

真面目で努力型だというのが東筑高校に対しての一般の評判であった。

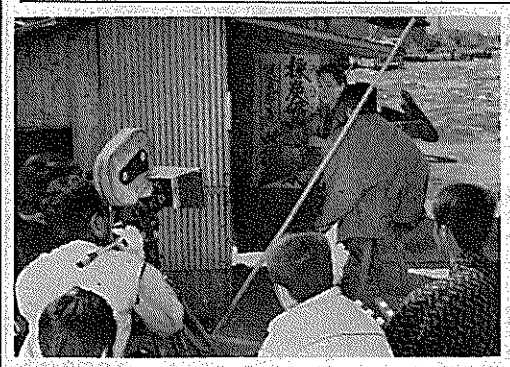
私達部員は、一本松に見送られながら東筑高校をあとにした。

映画部と東映ロケ隊

去る十月七日「花と竜」の東映ロケ隊がやって来た。この作品の映画化はこれで三回目だが今度の監督の山下耕作氏は、前二回とは違った味をだすのだと張り切っていた。十四日の夕方、我が映画部は、ロケ隊をニューブリッジに尋ねた。早速、スタッフとテーブルを囲んで、会談にはいった。皆、ユーモアのある気さくな方達で、大いに話がはずんだ。現実の映画界の不振について質問すると監督が「我々としても、皆が進んで見に行くような立派な作品を作って日本の映画をもっと盛りたてていきたいと思っている。そのためにもこの映画を成功させ、今後の映画の指針にしていきたい」といっていた。談話には佐藤慶も小松方正と参加したが、二人とも実に感じの好い人であった。途中、京都より田村高広がやって来たが、これまた実に素晴しい男性で、翌日門司ロケに参加した際にも、暖かくもてなしてくれた。門司では、錦之助と佐久間良子の最初の出会いの部分が撮影されたのであるが、風が冷たく、実に寒い中で行なわれた。

映画部からも、一年の女子がエキストラで出演したが、落ちついたもので、素人とは思えない程であった。また〆屋台のおばさん役で出た女の人は、素人ながらも度胸満点で、屋台のひさしが邪魔になって自分の顔がカメラに入らないといって、監督にひさしを上げるようにいった時等は、皆唖然としていた。錦之助曰く「まるで玄人だね。」こんなこともあり、実に楽しく、また、映画部にとって有意義な日を過ごした。

このような雰囲気で作られたこの映画はきっと素晴しいだろう。しかも若松が舞台とあれば、見のがすことはできないだろう。



左の写真は、東映「花と竜」の地元で行なわれているロケ中の一シーンである。

映画案内

※東映※

十二月四日

「花と竜」

※グラブ※

十二月十八日

「怪獣大戦争」

「エレキの若大将」

一月三日

「社長行状記」

「暴れ豪右衛門」

※第一秀映※

一月三日

「ジンギスカン」

「脱走特急」

中央大劇

12月11日

「クロスボー作戦」

「丘」

中央会館

次週公開

「アンクルトム・ケビン」

「稲妻の二年　十ケ月」

礫陵言

最近二年生あたりから「先生と生徒の感情のくいちがい」とか、「意見の対立」とかいう言葉をよく耳にする。

▼一体学校という社会集団においては他の社会集団とちがって、利害の不一致や、思想対立などあるはずがない。とくに教師と生徒との間で、そのような組織のあるべきわけがない。にもかかわらず上述のようなことがいわれるのは、夫々の間における、経験と思考の相違からくる解釈の相違でしかあるまい。生徒憎しと思って罵倒したり非を鳴らす教師もいなければ、教師に対して批判したり、言葉じりをとらえてエキサイトすることで快哉を叫ぶ生徒もおるまい。教師と先生はいうなれば共通の土俵に立ちながら勝負を要わない力士同志のようなものである。

▼課外講習一つをとってみてもこの間の説明はつくものだ。本来課外講習などというものは、教師の本業ではないはずだ。それをあえて実施しているのは、正課時数の不足を補う意味や、大学入試のための受験要領などを追加的にやる必要からしていることで、筋を通すなら、生徒や父兄から学校にお願いして、教師側からひきうけるといったほどのことであるはずだ。そういう手続きをとらないのは、過去いく年にもわたって慣習的に行なわれているために、教師側から案を示して希望をとるという形にしているだけなのだ。それを生徒の方から、学校教育の「予備校化」だとか、「学習備室」だとか非難するとしたら、とんでもない誤解というほかはあるまい。

▼しかし現状の高校生の苦悩もわからぬわけではない。巷に氾濫するマスコミの攻撃と、誘惑から自らを守って、目的達成に専念するには、相当の覚悟と努力が必要であろう。この両者の矛盾を背負って苦斗しているのが現代高校生の姿であろう。テレビの前に坐っていれば、両親から勉強部屋に行くことを強要され、エレキを楽しもうとすれば教師からは白い眼でとられる。学習せねばという気持はあっても、頭からおさえつけられるとつい反抗的になってしまうのもうなづける。（よ）

寝装品専門
板垣フトン店
本町四丁目　TEL ㊻ 3777

御菓子司
とき　わ
明治町四丁目　TEL ㊻ 1421

撮影D・P・E
大和写真工芸
若松区小石峠　TEL ㊼ 3173